

令和6年度第1回河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

日 時 令和6年11月6日(水) 午前10時00分～11時30分

場 所 河内長野市役所801(東)会議室、

出席者 車谷委員長、宝楽副委員長

佐藤委員、宮崎委員、宮地委員、飯田委員、

おぐし委員、吉年委員、尾花委員、池内委員

(河内長野市) 小川部長、伊藤課長、福本補佐、鈴木係長、島津副主査、玉置

(河内長野市文化振興財団) 前田館長、辻野マネジャー

1. 開 会

部長あいさつ

車谷委員長あいさつ

宝楽副委員長あいさつ

2. 案 件

(1) 第2期文化振興計画の進捗状況について

(2) 第3期文化振興計画策定に係る市民アンケートについて

案件1

第2期文化振興計画の進捗状況について

(宮崎委員)

様々な事業を行っているのは興味深い、「市民が主体となる場」とはどのようなことなのか。また、ホンモノを見れるのは良いことであるがそれが正しいものと思われぬように、自らが良いと思うものや正しいと思うものを表現し、見つけていくことができるような取り組みはあるのか。コーディネーター育成制度について、検討となっているのはなぜなのか、そして、どのようなコーディネーターを育てて、活躍してもらうことを望んでいるのか。

(宝楽委員)

第2期計画の時には、河内長野市にはラプリーホールを主とし本物に触れられる場所はたくさんあるが、市民が知らないから参加しないという点に対し「市民が主役となる場の創造」というところにつながった。

(池内委員)

アウトリーチで声楽アンサンブルの方に来ていただいた。知っている唱歌やジブリの曲のみならず、こどもたちが練習してきた曲と一緒に歌わせていただくことができ、お悩み

相談にもっていただいた。こどもたちはもちろん、教員である大人にとっても本物に触れることの良さを感じることができる時間となった。

(宮地委員)

事業評価シートにおいて、数値化がされていないが目標値などはあるのか。何がどのように変わってきたのかを知りたい。

➡現在の事業評価では、前年度を基準として効果があったものは「充実」、同程度だったものは「継続」と記載し、評価としている。第3期計画では、項目によっては数値的目標を設定し、達成度合いを評価とすることも検討していきたい。

(宮崎委員)

文化の評価の仕方として、定量的評価ができるもの、参加者の人数や満足度などの数値化はある程度必要であるが、人がくればよいのであれば、事業内容がニーズに応じるだけになってしまい、表現の場を殺しかねない。定性的なコメント・評価を専門家に見てもらうことはできる。今後成長戦略に文化が関わってくると集客という点も意識する必要がある。

案件2

第3期文化振興計画策定に係る市民アンケートについて

(おぐし委員)

アンケート内容で、言葉の書き方を変えた方が良いと思われる点がある。

➡いただいたご意見を反映させて修正します。

(吉年委員)

アンケートは対象となった市民の方に内容の返信を行うのか。また、1回だけで終わらせてしまうのか。事業評価を一覧表形式で行うと、実施したかしていないかの情報しかなく、各事業の頻度の違いや継続性がわからない。市民が関わり、変わっていくことを評価することが必要。量（数字やパーセンテージ）では測れないものもあり、一過性の評価だけでなく、目的が達成できたかどうか、第2期文化振興計画の総括評価が重要である。

➡アンケート結果は第3期文化振興計画の内容に掲載するか、他の形となっても公開は行う。今後市民の方へのアンケートを複数回行うかは検討の余地があると考えます。

3. その他

(尾花委員)

最近の若者は、結果よりも過程を好む傾向にあり、自分たちでつくりあげる最中の経

験に対して興味を持つ。さまざまなコミュニティ同士を結び付けることで、興味と興味も結びついていく。大人と子どもを分けて考えない。

(ラブリーホール 前田館長・辻野マネジャー)

ラブリーホールの活動について、来年3月にはマイタウンオペラシリーズでオペラガラコンサートを予定しており、ミュージカルスクールもラブリーホール内にとどまらず、活動を盛んに行っている。また、情報発信のためにさまざまなSNSを用いている。

(宝楽委員)

アンケートの内容に文化財が含まれているが、文化財のパワーが強すぎ、暮らしの中の文化が薄まってしまふことが危惧されることから、‘文化’の定義を補足し、文化財を文化振興計画にいれることが適切かの検討が必要。